

くらしに希望を、子育て、国保、渋滞・橋代！

—6月20日午後2時ころから共産党市議団が一般質問—



日本共産党
市議会議員団
週刊議会報告
【発行】
岡野長寿
(0845-22-2596)
三浦とおる
(0848-48-5044)

いよいよ6月議会、共産党市議団は、6月20日(木曜)午後2時すぎから、三浦とおる市議がトップバッターで、次いで岡野長寿市議が一般質問を行います。それぞれ20分の持ち時間で、アベ政治の悪政をバクロ、平谷市長に、市民の切実な要求をつきつけ、実現を迫ります。ぜひ傍聴にご参加ください。

岡野市議は、「日本社会は国民の賃金が上がらない異常な国になってしまった。その原因がどこにあるかを見極めることが重要。4月の選挙で、市長、市議会議員が認識した市民の声をしっかりと新しい市政運営に活かそう」と指摘し、
①全国知事会と連携して、構造的な問題となっている国民健康保険料の大幅な引き下げを実現すること
②合併で広がった尾道市の実態に応じた施策として、しまなみ海道の橋代軽減や渋滞対策
③デリバリー給食から普通の給食への転換を求めます。

岡野長寿市議の質問
1, 国保料値上げ阻止、軽減へ
2, 尾道大橋渋滞解決、橋代軽減
3, 小学校のような給食を中学でも

三浦とおる市議の質問
1, 「子ども子育て支援法」は真の幼児教育無償化と言えるのか
2, 子ども医療費助成制度を高校卒業まで引き上げよ

三浦市議は、アベ政権が鳴り物入りで宣伝している「子ども子育て支援法」は所得の低い人ほど負担が重い消費税増税を前提としていること、これまで保育料に含まれていた食料費(副食費)が別個に徴集されることから負担増となる世帯が出てくるのではなにかという問題点などを質し、共産党が提案している本当の幼児教育無償化を実現しようとして訴えます。
また、「子育て支援は県内トップクラスと言っているのなら、子どもの医療費助成を高校卒業まで拡充すべきだ」と迫ります。

市政への要望がドシドシと 盛況の6/8市政要求懇談会



三原市では年間を通して無料障がい者のバス通所
障がい者の作業所での賃金は低く、日当は作業所までのバス運賃で消えてしまいます。尾道市では等級により1万2千円と1万8千円のバス券を支給していますが、1ヶ月3ヶ月程度で無くなってしまう、年間を通してバス定期券を発行して欲しいという要望が出されました。
岡野市議の直近の調査では、三原市には年間を通して無料制度があることがわかり、三浦市議が質問の準備中です。

子どもの遊び場がない
運動公園の遊び場が進入禁止となったり、廃校となった学校からすべり台がなくなったり、学校の門が閉まっていたりと、子どもの遊び場が少くないという指摘が少なくないという指摘が横断歩道の白線が消えている
あつちもこつちもどうなっている
横断歩道の白線など、75%以上消えないと引き直しの対象にすならならぬ、改善を強く要望が

原発さよなら、アベ政治さよなら 尾道から「原発ゼロの決断を」の声



6月9日、岡野長寿市議・三浦とおる市議と一緒に、フクシマから考える一歩の会が主催する「さよなら原発・歌声パレード」に参加しました。
当日は晴天に恵まれ、多くの市民の皆様が参加して「原発ゼロ」を訴えました。
広島市から参加されている方や、丁度「尾道に観光にきた」と言われる静岡からいられたミュージシャンの方も参加されて、パレードの前の集会でオリジナルの「原発再稼働反対の歌」を披露していただくこともできました。
「島根原発が再稼働の申請をしている。計画では事故が起きた場合、尾道市は1万2900人の避難民を受け入れることになっていくが本当にこんな避難計画が実施できるのか?」「大規模災害が起きた時に、現在稼働中の伊方原発でこのきれいな瀬戸内海を汚染させてはならない」「国のエネルギー政策は大企業の言うまま、国民を危険にさらしている」等々原発再稼働反対の声が次々と訴えられておりました。